



エアコンキャンペーン真っ最中

7月に入り福岡の夏といえば博多祇園山笠・・・また、夏の風物詩であるホテルのやさしい灯りがともる季節でもあります。夕闇をふわふわと舞う幻想的な光景を見たいと思いつながら実現できずにいます。彩花は、エアコンキャンペーンで大忙しの日々です。エアコン清掃が定着しリピートのお客さまが増え嬉しい悲鳴を上げています。また、室外機清掃も定着してお客様の節電意識が高まっていることが分かります。トータルでお客様のキレイのお役に立ちたいと彩花は願っております。これからもよろしくお願ひ申し上げます。



おふくろに感謝

私が住んでいる町内に薬師堂があります。薬師堂とは薬師如来を本尊とした仏堂で、薬師如来は「病氣平癒の仏」とされています。この薬師如来様に助けられた話をします。

実は、自分が35年前、33歳の時に「胃癌」を発症しました。その時代の「癌」と言えば、死を意味する病気でした。

今だから言えますが、かなり進行していた癌だったと後で家族から聞きました。

この時、おふくろは仏様に頼る気持ちで、薬師如来様にお参りを始めました。雨の日も風の日も休むことなく

「お茶通し・お花をあげて掃除」を欠かさず、毎日お参りしてくれていました。

そのお陰と思います、胃がんが治り普通に生活ができるようになり、仕事も復帰出来ました。

この年齢まで病氣も再発することなく、今があるのはひとえに、おふくろが念じて

拜む気持ちが薬師如来様に届いたのではないかと思います。

おふくろは病氣が治った後も、83歳までお参りを欠かさずし、現在89歳になりました。

今の持田家を含めクリーン彩花があるのはおふくろのお陰だとつくづく思います。

感謝でいっぱいのお気持ちをありがとうございました。



90歳の愛読者・・・続編

彩花新聞の愛読者である「たまえばあーちゃん」が6月で90歳になりました。毎月1日を楽しみに彩花新聞を待って頂いています。

6月は発行が遅れて1日に渡せませんでした。「どうして今月は届かないかな」と心配しておられたみたいです。持っていき「うちはこれを楽しみしている」と言われ、とても嬉しくなりました。

「これからも忘れないで持って来て」と言われ、またまた嬉しい気持ちに・・・

一人暮らしで農業をしてあり、まだまだ元気でしっかりしてあります。農業で車は必需品で、ずっと乗ってましたが、6月の誕生日で車の免許を返納するとのことでした。子供さんやお孫さん、親戚の方々が心配されるので決心したとのこと。交通が不便なので手放されなかったようですが、事故など起こして人に迷惑をかけたらいけないと決心したようです。

ちょっと寂しそうでしたが、これからも90歳の元気なエネルギーを頂きたいと思ひます。



花の根を愛する

「ありがたい」「おかげさま」「恩にきます」といった感謝の気持ちを表す言葉を、普段どのくらい使っていますか？ 直接、何かをしてもらった時は「ありがとう」という言葉は出てきやすいものです。

「花を愛する人は多いけれど、根を愛する人は少ない」という言葉があります。

目に見えないけれど、自分を陰で支えてくれる人や物には心が向きません。植物は大地から栄養を与えられることによって、美しい花を咲かせます。天高くそびえる大樹も、地中に深く根を張っているからこそ揺るがないのです。

そうした自然の摂理は、私達の生活にもあてはまります。親や祖先という根があるからこそ、今こうして暮らしているのです。自分の命を陰で支えてくれる親や祖先に心を向けましょう。

感謝の念が深まることで、表情や態度が明るくなり、心が素直になって、より豊かな人間関係を築けるはずで、この関係はなかなか難しいところですが、このことを心の片隅に置いておくといひでしょう。

モヤモヤのお掃除

■皿洗いと散歩

最近ハマっていることがあります。「皿洗いと散歩」です。朝おきるとすぐ外の台所に行き、洗い物がたまっていると「よし！」と気合いを入れ、コーヒーを飲むまえに無心に皿や鍋を洗います。お寺の小僧のごとで、寝ぼけがとれ、身も心もスッキリ、一日の始まりとして最高です。朝の修行が一段落して散歩に出かけることも週に数回。目的なく、ご近所の路地、田んぼの畦道、松林の小径をさくさくぶらぶら歩くだけ。1時間余り歩いていると、自然の中にお邪魔している感覚になり、元気やアイデアがジワジワと湧いてくるから不思議です。余計なことを考えず、皿を洗い、散歩をすることで、雑念（心のゴミ）がスーッと消え、心身が整えられていようという気持ちいいのです。人間は日々知らず知らずのうちに、いろんなストレスを抱え、心配事が次つぎに現れ、マイナスの感情がしこり、モヤモヤとした霧のなかに漂っているのだと思います。

■モヤモヤの時代

こんなモヤモヤの自分なりの解消法が「皿洗いと散歩」だったというわけです。そういえば最近、「モヤモヤ」という言葉をよく目にすることに気づきました。書店にいくと、脳科学者と絵本作家の共作で小学生の問いに答える『モヤモヤそうだんクリニック』という本や『人間関係のモヤモヤは3日で片付く』といったエッセイがあり、検索すると「【精神科医が教える】心のモヤモヤが吹き飛ぶたった1つの考え方」といったビジネス雑誌の記事がいろいろ出てきます。「モヤモヤの時代」と言えそうです。

一方、モヤモヤを人間成長や創造性の糧としていく考え方が教育、精神医療、ビジネスなど幅広い領域で広がっています。NHKクロズアップ現代で「迷って悩んでいいんです。注目される“モヤモヤする力”」という特集が取り上げられたことがあります。その番組では、すぐ解決できない事態に結論を急がず、答えのない状況に耐え迷う「モヤモヤする力」（ネガティブ・ケイパビリティ）を見直そうという考え方が紹介されました。

■ジェーン・スー「相談は踊る」

自分のモヤモヤを口に出し、開示しあうことでモヤモヤの背景や解決法をさぐり、精神的に成長し自己肯定感につなげていこうという社会的変化も出てきています。主役は若年世代から中年世代、それも圧倒的多いのは女性のように。そのことを痛感したのはTBSラジオの番組「ジェーン・スー 生活は踊る」という番組のなかの「相談は踊る」というコーナーです。リスナーから寄せられるモヤモヤ（悩み）にジェーン・スーさんが共感を示しながら、個人的な経験や日常生活のエピソードを交えながら、実践的でポジティブな視点から解決の糸口を提供していくもので、毎回、うなりながら聞いています。モヤモヤの時代にあって、彼女の人気はうなぎ登りで、モヤモヤ井戸端会議を率いるオバサンマドンナの状態です。

■心のお掃除

皿洗いも散歩も人生相談も「心のお掃除」。お掃除をすることで、心身が整い“スッキリ”していくというのは人間にとって普遍的ないとみのようなものです。全てを自分で完璧にやることはなく、部屋のお掃除が苦手な人や時間的余裕がない人は、お掃除のプロにお任せし、スッキリした気分と居心地よさを実現していけばいい。お掃除を頼んだほうも、お掃除をさせていただいたほうも、ちょっとずつモヤモヤを解消していく。そう考えると、「ハウスクリーニング」という仕事は双方に“もうけ”のあるとても人間くさい仕事だなあと改めて思ったことでした（らく）